社会の一員としての取り組み

Social Responsibility

コンプライアンス

コンプライアンスの考え方

三菱ふそうは、ダイムラー・トラック部門の一員として全世界のダイムラー関連企業に適用されているダイムラーの『インテグリティーコード（倫理規定）』に沿って企業活動を行っています。コンプライアンス部門は、社員へのコンプライアンス意識の浸透、定着のため以下の諸施策を実施しています。

インテグリティーコード
（倫理規定）

不正防止の施策

◎段階的な承認プロセス

CEOのリードによる「FUSO コンプライアンス・サークル・ミーティング（FCCM）」と、販売本部のL3部長のリードによる「コンプライアンス・ワーキング・チーム（CWT）」が2010年10月に設立され、法令、規則、社内コンプライアンスルールを順守するための社内承認プロセスが確立されました。

◎セールス・ビジネスパートナー・デュー・デリジェンス

ビジネスパートナーとの取引や契約を実行する前に、ビジネスパートナー・デュー・デリジェンスを実施し取引先企業やその代表者が誠実であり、業界で優れた立場を持つことを確認しています。

◎コンプライアンス・トレーニング

定期研修（新入社員向け、リフレッシャー研修、各部門のタウンホールミーティング、ビジネス・プラクティス・インフォメーション・セッションにおけるコンプライアンス最新情報のプレゼンなど）をダイムラー・コンプライアンス研修プログラムに従い実施しています。

企業倫理/コミュニケーション

◎CEOメッセージ

イントラネットに毎月掲載されるCEOメッセージは、すべての社員に配布されるFUSOタイムズ（社内報）にも掲載され、コンプライアンスに関するトピックが織り込まれています。これらのメッセージでは、海外不正防止法、独占禁止法、およびその他の不正防止に関連するトピックについてCEOが意見を述べています。

企業倫理推進委員会※1

委員会が隔月に開催され年末の委員会には社外有識者が参加します。三菱ふそうが取り組む品質改善の状況やコンプライアンスに関する諸施策の実施状況が報告され、委員から指導や助言があります。

誠実性について考える日※2

三菱ふそうは1月10日を「誠実性について考える日」とし、社内において誠実性の意識を高め維持することを目指しています。

BPO・CCD・ECH

社員が相談・通報する内容により次の三つの連絡先があります。

BPO（ビジネス・プラクティクス・オフィス）
：重大な規則違反を通報するためのダイムラーのシステム

CCD（コンプライアンス・コンサルテーション・デスク）
：贈賄防止に関する相談

ECH（社員コンサルテーション・ホットライン）
：業務・職場に関する社員相談

詳しい連絡先はイントラネットや印刷物を通じて、すべての社員に周知されています。

フェアプレーキャンペーン

ダイムラーから年間3～4回発行される「フェアプレー」キャンペーンの内容がイントラネットに掲載されます。
ポスターがすべての部門に配布されるとともに、パンフレットがすべての社員に配布されます。
2012年のフェアプレーキャンペーンでは、公平な職場づくり、盗難の防止、個人情報の保護、およびソーシャルメディアの正しい活用法に関する内容が伝えられました。

fairplay.
Live values. Create value.

※1：会社に於ける企業品質、企業倫理、およびコンプライアンスの向上に関する施策、また、その実施状況等について評価、審議する機関です。委員会で審議した企業品質、コンプライアンスに関する方針、施策等を会社の経営会議又は取締役会に報告します。
※2：トップメッセージを周知するとともに職場ディスカッションを実施します。

お客様との関わり

信頼度No.1企業へ

お客様に満足・信頼していただける製品やサービスを供給し続けることが、「信頼度No.1企業」につながるものと信じ、私たちは「品質第一」を企業理念のひとつに掲げ、品質管理プロセスの改善に日々取り組んでいます。
2011年4月には国際的な自動車産業セクター規格である「ISO／TS16949」※1の認証を取得し、継続的に品質を改善していくことのできるシステムを構築・運営しています。さらに、このシステムを関連会社であるMFTE（三菱ふそうトラック・ヨーロッパ）にも導入し、認証を取得しました。
また、国内の関連会社である三菱ふそうバス製造株式会社や、パブコ株式会社にも展開すべく活動を実施中※2です。
このように、グループ全体で品質管理プロセスの改善を進めています。

開発品質～作りやすい・整備しやすい車の開発

開発段階での品質管理プロセスについては、これまでも開発部門と生産部門が連携を図りながら新製品の開発に取り組んできましたが、さらにその上を目指し、開発段階から生産準備･生産･アフターサービスまで一貫して品質を向上させる仕組みを導入しました。これは、生産ラインでの部品の組立作業性やアフターサービス時の車の整備作業性までを想定し、生産からアフターサービスに至る段階で起こり得る不具合の芽を摘み取ろうというものです。
また私たちは、ダイムラー・トラック部門の商品開発プロセスであるCVDSを導入し、あらゆる製品について、各々のプロセスで確実に不具合の芽を摘み、不具合を先送りしない開発を行うことで、量産体制へのスムーズな移行を可能にしています。

製造品質～お客様に信頼される生産ラインづくり

製造工場では、部品の受け入れから、機械加工、組立、完成検査、輸送に至るまで、各工程で大勢の社員が働いていますが、すべてのプロセスで品質向上活動を行っています。
「お客様に信頼される生産ライン」を目指し、品質に対するすべての責任を生産ライン内で負うという意識付けと体制づくりを進めています。

◎トレーサビリティの強化

車両やコンポーネントに組み付ける個々の部品の生産履歴が特定できるプロセスを確立してトレーサビリティを強化し、不良品を後工程に流出させない体制を確立しています。これによって、万が一、不良品が流出した場合でも正確で迅速な対応をとることができます。

◎生産ラインのクリーン化

生産ラインをクリーン化（整理整頓）することで、目に見えない、隠れた品質不具合要因を排除し、安定した作業による安定した品質を継続的に確保しています。

◎品質月間

2012年で第53回を迎える「品質月間」にあたり、その活動の一環として11月16日に「FUSOクォリティデー」、11月29日に「FUSO品質フォーラム」を開催しました。
クォリティデーでは、国内および海外販売部門の社員より“カスタマーボイス”、お客様の生の声を主に紹介する講演が行われ、その後グループに分かれ「お客様のために明日からできること」をテーマにディスカッションを行いました。
品質フォーラムでは、社外の有識者の方を招き、日本品質の再生、CS向上などについて講演いただきました。具体例を交えたお話は大変新鮮かつ有意義で、今後の品質向上活動のヒントが数多く盛り込まれていました。

社外有識者による講演会

※1：2011年4月、国際的な自動車産業セクター規格である、ISO／TS16949の認証を完成車メーカーとしては、日本で初めて取得しました。
※2：三菱ふそうバス製造株式会社は2013年7月、パブコ株式会社は8月にISO／TS16949の認証を取得しました。

◎品質社内講師による啓発活動

現在、５名の品質社内講師が持つ、専門の品質手法を多くの社員が日常業務で活用できるように、啓発活動を実施しています。

講師の任期を３年１サイクルとして、１年目は習得期間で、講師自身が品質手法の知識や講師としてのスキルの取得を行います。２年目はそれまでに習得した知識やスキルを講義や指導会で社員に紹介します。３年目は習得した知識・スキルの活用に加え、次期講師にこれまでに培った知識やスキルを伝承する活動を主に行います。

講師育成のために品質手法の教育を継続することで、品質手法の活用水準が上がり、業務品質および製品品質のレベル向上にもつながっています。講師自身もベーシックな品質手法を人に教えるために理解を深めることで、さらに高度な品質手法を取得、活用することが可能となります。

委員会が隔月に開催され年末の委員会には社外有識者が参加します。三菱ふそうが取り組む品質改善の状況やコンプライアンスに関する諸施策の実施状況が報告され、委員から指導や助言があります。

アフターサービス品質の強化

大事な品質管理プロセスに、アフターサービスの品質管理プロセスがあります。三菱ふそうでは、お客様が日々使用されている車両の品質を確保し、より質の高いサービスを提供できるように、日々改善に取り組んでいます。

三菱ふそうはお客様の品質に関する意見、問い合わせを迅速に収集・処理し、その中から重要な情報をいち早く社内で共有し、問題解決に当たります。問題解決までの時間を最短にすることで、お客様への迷惑が最小限になるよう努めています。

具体的には、販売会社（部門）と市場情報を交換する品質会議の開催頻度を増やし、品質情報の早期収集に努めています。また、販売会社（部門）と本社品質部門間にホットラインを設け、お客様対応で発生した各種問題を早期に解決しています。

◎サービス技術コンテスト

サービスの利便性、品質、正確さの向上を図り、業界トップレベルのサービス提供を目指し、全国の販売会社（部門）より選抜されたチームによって、トラブルシューティングと商品・整備に関する知識について競うもので、2012年度は、「頼りになる整備力」の達成に向け、36のチームが競いました。

◎販売・サービス拠点における品質向上活動

三菱ふそうでは、架装を含めた車両全体の製品品質向上、およびISO9001による業務品質、サービス品質向上に向け、さまざまな活動を行っています。

過去に発生した不具合事例より、繰り返し発生している項目のチェックリストを作成し、座学、実車での教育を実施しています。

また技術的な品質向上と同時にお客様の満足度を向上させるために、「お客様目線」をキーワードとして考え、「6S」の徹底を目指し、取り組んでいます。

◎Clean & Paint活動

販売・サービス拠点の職場環境向上および接客品質向上の一環として、外壁の塗装、ユーザールームの改修、メカニック控え室の改修等を進めています。

千葉支店の例

◎ユニフォームの変更

販売・サービス拠点でのスタッフのユニフォームを一新し、お客様に感じていただける清潔感を実現しています。

動きやすさ、利便性の向上のみならず、クリーニングサービス付きレンタルユニフォームの導入により、効率的に清潔なユニフォームの維持管理を可能としています。

ユニフォーム：タイプA

ユニフォーム：タイプB

お客様への細やかな対応を目指して

◎お客様相談センター

お客様相談センターは、お客様対応窓口として、お客様からの電話による各種お問い合わせ・ご意見等をお受けしています。

同センターでは、お客様に満足していただくため、「迅速・確実・丁寧」な対応を心がけると共に、お客様から寄せられた貴重なお声は、現在、商品開発・販売・サービスなどの業務において、お客様満足度（CS）の向上のために活用するための準備を進めています。

（お客様相談センター　電話番号・受付時間）

三菱ふそうお客様相談センター	
電話番号	0120-324-230(全国共通フリーダイヤル)
受付時間	月～金 (除く所定の休日) 9:00～12:00／13:00～17:00

また、2012年11月より、ご案内ガイダンスの導入と担当の振分けによる体制の変更・強化や、リコール等の市場措置専用お問い合わせ先の新設により、お客様からのお問い合わせにスムーズに対応できるようにしました。

◎お客様への情報の提供

三菱ふそうは、インターネットホームページを通じて、さまざまな情報をタイムリーにかつ継続的に提供しています。

商品・技術情報、企業情報、ニュースリリース、環境への取り組み、リコール情報等があり、リコール情報のページでは、お客様のお車が「リコール・改善対策およびサービスキャンペーン」の対象車両に該当するかどうかを自動検索することができます。

◎情報誌の発行

「FUSO TRUCK & BUS MAGAZINE」は毎月、「ふそう耳より情報」は年に4回発行し、お客様にとって有益な情報を冊子でお届けしています。

◎iPad導入

2012年4月、業界初の試みとして販売拠点の営業スタッフのツールに、タブレット端末（iPad）の導入を行いました。営業の際に多くのカタログや資料を持参する必要も無くなり、お客様のリクエストにもスピーディーかつ的確に応えられるようになり、業務の効率化だけでなく、お客様とのコミュニケーションを通じて、その質と量の向上に大いに貢献しました。

当初は、新車販売業務に導入され大きな成果を挙げたため、その後、サービス（整備）部門にも導入拡大しました。ここでも、不具合内容や整備状況の正確かつ迅速な情報共有に力を発揮し、お客様の満足度向上に一役買っています。

今後も各種シミュレーション機能など有効なアプリの開発、写真・動画機能の一層の有効活用、ＳＮＳを利用したコミュニケーション機能の活用など、営業マンがどのような状況においても120%の対応ができるよう、「最強ツール」に育てていきます。

営業マン講習会

iPad画面イメージ

◎きめ細やかなサービスの提供を目指して

三菱ふそうでは、サービスの質の向上と共に、整備需要の高まっている地域への拠点新設を行い、お客様に安心して当社製品を使用していただけるよう努めています。

2013年2月には、震災復興へ向けて稼働する車両が多い、宮城県気仙沼市に東北ふそう石巻支店・気仙沼サービスセンターを開設し、迅速なサービス体制構築を目指し、九州ふそう・八女サービスセンターを、また2013年6月には、世界文化遺産への登録が決定された富士山地域におけるサービス体制の拡充のため、甲信ふそう甲府支店・富士河口湖サービスセンターを開設しました。

東北ふそう・気仙沼サービスセンター

安全・安心で快適な移動を守る、ふそうバスの安全技術

乗客の安全を考慮し、進化する安全性能

三菱ふそうのバスは、環境にやさしく、人々の安全・安心で快適な移動をお客様に提供するために、日々、改善を重ねています。そうした安全に対する取り組みの変遷や現状の安全技術について、バス開発統括部の布川部長に聞きました。

三菱ふそうトラック・バス株式会社
バス開発統括部 バス開発部長
布川 友之

■バスの安全性を一新した初代エアロバス

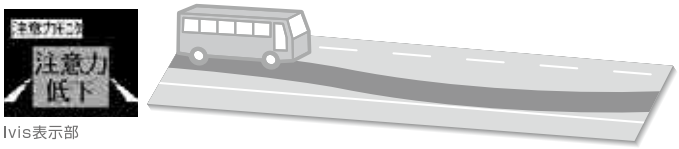
三菱ふそうのバスは、運転のしやすさに関してはトップレベルだと思っています。「運転しやすい」ということは、ドライバーの方が気持ちよく運転できるだけでなく、何よりも予防安全（アクティブセーフティ）につながっていると思います。
むかしの大型バスは、高速でまっすぐ走らない、曲がり角で視界が悪い、ハンドルを切っても不安定など、今と比べると安全面での不満が多くありました。三菱ふそうは、そうした不満の改善に早くから取り組んできました。
ふそうバスが大きく変わったのは、1980年代の初めに初代エアロバス（MS7系）が出たときで、従来の観光バスのイメージを一新しました。
独自の工法のボディ構造（スーパーコンプストラクチャ）で強度剛性のアップを図ると同時に、軽量化を実現しました。また大型バスでは国内で初の前輪独立懸架式エアサスペンションの採用やフィンガーコントロールトランスミッションなどを装備し、それまでのバスと比べて走行安定性、運転操作性、強度面での安全性などが格段に向上しました。
90年代の2代目エアロバス（MS8系）のときには、運転席にSRSエアバッグが標準装備され、衝撃吸収ステアリングの装備や、衝突に対しての応力をうまく分散させるボディになるなど、衝突したときの安全性（パッシブセーフティ）が一段と向上しました。

■乗客の安全を考慮したチューニング

2007年に出た現行モデルの3代目エアロシリーズ（MS9系）からは、ぶつからないようにする仕組みを多く採り入れています。一つはMDAS-Ⅲ（運転注意力モニター）を標準装備したこと。さらにブレーキとアクセルを同時操作した場合にブレーキが優先される「ブレーキオーバーライドシステム」や、側方の視界を充分に確保することができる「サイドビューカメラ」の搭載など、「より早い段階での予防安全」を重視した最先端の安全技術を全車に標準搭載し、安全性の向上を図りました。
そして2013年1月15日発売の大型観光バス「エアロクィーン」と「エアロエース」全車に、高精度のミリ波レーダーで前車との車間距離を監視し、衝突の恐れがあるときにブレーキ制御で衝突時の速度を抑える「衝突被害軽減ブレーキ（AMB）」を標準装備。また、前車との車間距離の保持を促す「ディスタンスウォーニング（車間距離警報装置）」、雪道や滑りやすい路面においても走行を安定させる「ASR（アンチスピンレギュレーター）」も新たに全車に標準装備し、安全性能がさらに向上しました。
AMBは2年ぐらい前からトラックには搭載していましたので、バスにもすぐつけることはできたのですが、作動した時に急ブレーキがかかるので、立っているお客様がけがをする恐れがありました。乗車中はシートベルトをすることになっていますが、トイレに行くお客様とかもおられますから。
そのため何度も実験を繰り返し、立っているお客様がいても踏みとどまれる強さのブレーキにチューニングをしました。
安全に対する基本的な考え方はバスもトラックも同じですが、バスの場合、一番違うのは乗客に対する安全という点です。

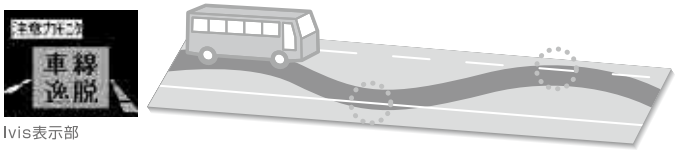
MDAS-Ⅲの作動イメージ

注意力低下警報　操作頻度減少、ゆるい蛇行など



Ivis表示部

車線逸脱警報　注意力低下、ひどい蛇行（車線逸脱）など



Ivis表示部

図は説明のため強調されています。

■万が一の場合の作動を体験していただく試乗会を開催

最近では乗用車にもエアバッグが当たり前についていますが、買い替えるまでまず作動することはありません。安全のための装置であっても、一度も働いたことのない装置が万が一の時にいきなり作動したら、びっくりすると思います。

そのためAMBについては、喜連川研究所にお客様をお招きしての試乗会を何度も行っています。

お客様に実際に乗っていただいて、装置が働いた時に出る警告音、ブザーの音、ブレーキの効きなどを体感していただいて、こういうときはこんな音がして、そのあとブレーキがかかりますよ、ということを体験していただいています。

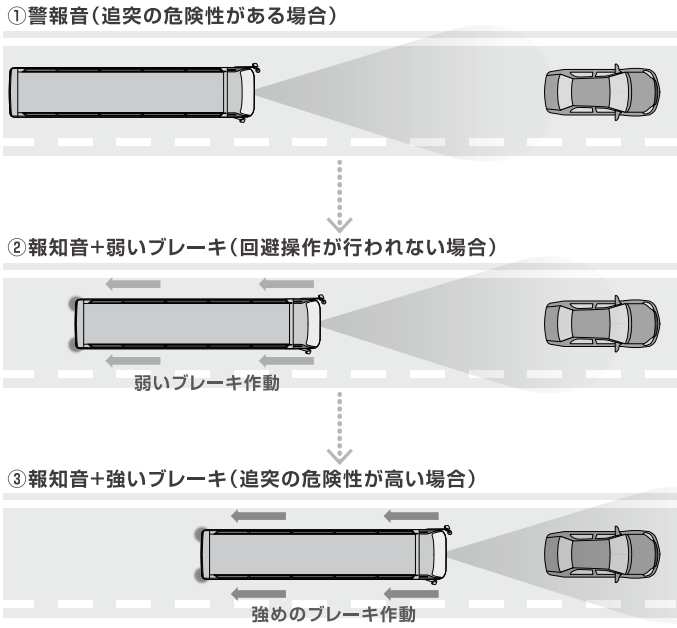
それでも運転手さん全員が体験できるわけではないので、DVDをお配りして、とっさの時に、こういう音がしたらこういう判断をしてくださいということをご理解していただくようにしています。

AMBの場合、お客様がけがをしないようにブレーキを緩めにかけているのですが、警報が出た段階で運転手さんが強いブレーキを踏めば事故を回避できるというタイミングで警報を出しています。そのあたりを慣れていただければ実際に対応できると思います。

今はAMBにしても手前で止まるものではなく、減速してぶつかるという風にチューニングしているのですが、将来的にはぶつからないにこしたことはありません。

そうはいってもぶつかるときに減速するかしないかで、けがのレベルを相当減らすことができます。時速10キロ違えば死亡率は半分になるという分析結果が、一般財団法人日本自動車研究所（JARI）から報告されています。

AMBの作動イメージ



■新技術は官民が協調しての研究も重要

MDAS-Ⅲは、ドライバーに運転注意力低下を警報する三菱ふそう独自の技術です。

白線認識カメラの情報による車両のふらつきや、ドライバーの修正操舵、ウインカー等のドライバーの運転操作を総合的に判断し、ファジイ推論を採用したロジックでドライバーの運転注意力の状態をモニターし必要に応じて警報を発します。

またMDAS-Ⅲは、車線を外れたら警報を出す車線逸脱警報機能とも連動し、注意力が低下した状態で車線をはみ出した時は、はみ出し側のスピーカーから警報音を出し、はみ出した方向をドライバーにわかりやすくするなど、運転を積極的にバックアップし予防安全性を高めています。

さらに、すぐ実用化というのはむずかしいかもしれませんが、現在の技術では車線逸脱警報機能とハンドルの自動操縦を組み合わせれば、白線を認識して、車線内を自動で走ることができます。暗視装置を使えば、真っ暗になっても前方を検知して走っていくこともできます。

隊列走行で何台も連なって、うしろのクルマは機械まかせで、車間距離をつめて走ることも可能になっています。そうすると2台目以降はスリップストリーム（空気抵抗が通常より低下した状態）に入るので、CO_2が低減できます。

そういうことが自動でできる技術が少しずつ開発されています。そうした技術に対応する道路のインフラの部分も国での研究が始まっています。

当社のアドバンスエンジニアリング部門も、研究開発部門と最先端の共同研究を進めています。こういった官民挙げての安全に対する取り組みにより、将来はさらに安全なバスを提供できると確信しています。

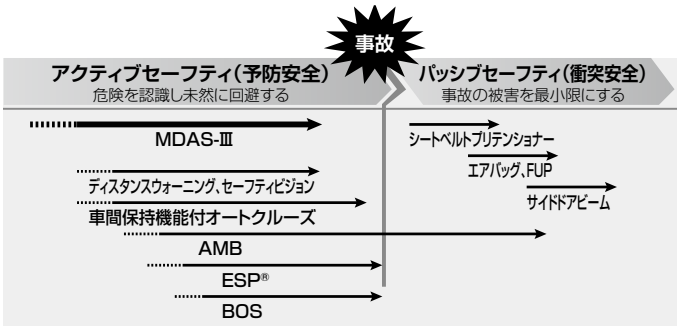
安全に対する取り組み

新技術の研究開発を進め、交通事故のない社会を目指す

三菱ふそうは、交通事故のない安全な道路交通社会を目指すため、事故が発生する前の「より早い段階」で事故を抑止する予防安全装備こそが大切と考え、さまざまな安全技術を開発し搭載を図っています。また、安全に関わる基本的な考えを踏まえ、安全装備を積極的に新型車に搭載しトラック・バスの安全性向上を図るとともに、省庁・関連団体による研究開発プロジェクト等に参加し、社会的な取り組みへの協力も積極的に行っています。

新型車に予防安全装置を積極的に搭載

三菱ふそうのトラックおよびバスは、事故を未然に回避するための「アクティブセーフティ技術（予防安全技術）」とともに、事故発生時の乗員被害を最小限にするための「パッシブセーフティ技術（衝突安全技術）」を数多く取り入れ、事故発生の抑止、および万が一事故が発生した際の安全性を高めています。



◎予防安全装置の搭載状況および搭載台数

〈凡例〉◎：標準装備　○：一部車種に標準装備　△：オプション

予防安全装置	搭載状況（2013年1月時点）		搭載台数（2012年）
	大型トラック	大型観光バス	
衝突被害軽減ブレーキ	○	◎	5,200台
ふらつき警報、車線逸脱警報	○	◎	5,071台
車間距離警報	○	◎	5,301台
車両横滑り時制動力・駆動力制御装置	○	−	956台
車輪スリップ時制動力・駆動力制御装置	○／△	◎	5,255台
車間距離保持機能付オートクルーズ	△	△	64台

社会的な取り組みへの協力

◎自動運転・隊列走行に向けた研究開発

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が推進する「自動運転・隊列走行に向けた研究開発」事業に参加し、当社製大型トラックに自動運転・隊列走行システムを搭載し、実用化を想定したシステムの信頼性およびHMI（Human Machine Interface）の検証、受容性評価を積極的に行っています。

◎ASV推進計画

国土交通省が推進する「ASV推進計画」に参加し、ASV技術の飛躍的高度化、通信利用型安全運転支援システムの開発促進、ASV技術の理解および普及促進などの検討・議論を積極的に行っています。

◎通行実績情報利活用検討会

ITS Japanが推進する「通行実績情報利活用検討会」に参加し、今後起こりうる大規模災害に備えた災害時の通行実績情報の収集や公開方法などの具体的な検討に積極的に協力しています。

交通安全・地域社会での取り組み

◎カーブミラーの点検・清掃

2012年10月、三菱ふそうの作業長会は今年で7回目となる中原区内のカーブミラー点検、清掃を実施しました。32名の作業長が参加してカーブミラー722本の清掃を行いました。

カーブミラー清掃の様子

◎母と子の楽ラク運転講習会への協力

このイベントは、日本自動車ジャーナリスト協会（AJAJ）が主催する親子の交通安全促進を図るイベントで、年に一度、開催されています。

2012年は、第10回目の開催となり、2日間で1,500組以上のお母さんとお子さん、お父さんが参加されました。

当社は、大型トラクター「スーパーグレート」および大型観光バス「エアロクィーン」を出展し、「死角の確認」のプログラムなどでこのイベントに協力しました。

母と子の楽ラク運転講習会

社会との関わり

三菱ふそうは地域の方々との交流・融和から、広く社会全体への貢献をめざして、さまざまな活動を進めています。

学生フォーミュラの活動をサポート

学生のものづくりの総合能力を養成し、将来の自動車産業を担う人材を育てるための公益活動として2003年にスタートした「全日本学生フォーミュラ大会」は、2012年で第10回目を迎えました。三菱ふそうは自動車技術や人材育成に寄与するこの大会をスポンサーとして支えているほか、関東地区の出場大学にむけ、学生自ら設計・製作した車両の性能確認や運転訓練のため、喜連川研究所のテストコースを開放しています。
また同様に高校生が参加できる大会「エコマイレッジチャレンジ全国大会」に出場する高校にも、喜連川研究所のテストコースを開放しました。

学生フォーミュラの練習風景

高校生エコカーの雄姿

みらいスケッチコンクールの開催

全国の幼稚園・保育園を対象とした恒例のスケッチコンクールは、2012年は「未来」をテーマとし、1,010点の作品が寄せられました。審査委員長であるイラストレーターの森伸之氏らによる審査の結果、最優秀賞3点のほか、優秀賞、準優秀賞など計38点の受賞作品が決定し、賞品が贈呈されました。

みらいスケッチコンクール最優秀賞受賞作品

ダイムラーファミリーデーの開催

2012年11月「ダイムラーファミリーデー in 三菱ふそう川崎工場」を開催しました。
車両の展示や試乗、工場見学をはじめキャラクターショーやステージショーなど、子供から大人まで楽しめる企画を用意し、多くの社員家族や地域の方々に参加いただきました。

ダイムラーファミリーデー

富士山麓清掃の実施

2012年5月、日本におけるダイムラーグループのCSR活動として、またFUSO 2015の取り組みの一環として、三菱ふそうをはじめ、国内ダイムラーグループ4社の社員、役員とその家族が参加して、富士山麓での清掃活動を実施しました。認定特定非営利活動法人「富士山クラブ」の環境保全活動に参加する形で行ったもので、アルピニストで同クラブ理事の野口健氏とともに総勢88名が富士裾野の多くの廃棄物を取り除きました。最終的に回収したごみの量は1,730Kgに上りました。

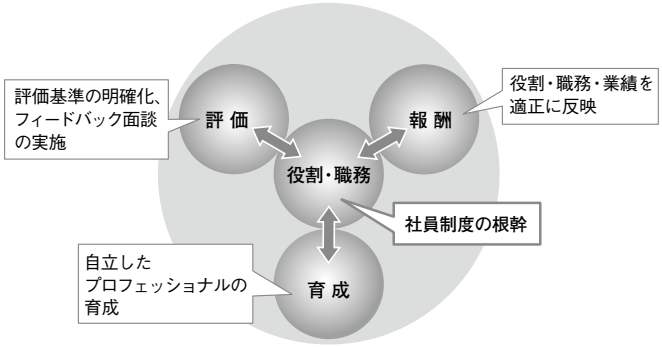
従業員との関わり

社会的変化への対応・雇用等に関する方針

三菱ふそうは、グローバルなビジネスを展開しており、積極果敢に行動できるパワーのある人材を求めています。
採用・人材配置にあたっては、国籍・性別によらない能力のある人材の登用を行っています。
また、「エイジアソシエイト制度（定年退職者再雇用制度）」により、豊富な知識を有する方の活躍の場やモノづくりの伝統を次世代へ受け継ぐ仕組み、働きやすい環境づくりに力を入れています。

◎人事制度

人事制度は「上司と部下が積極的に対話し、考え、実践し、成功体験を積むことで互いに成長していく」ための仕組みです。PDCAのサイクルを機能させ、適切なコミュニケーション、特にフィードバックを行うことが、個人の成長、ひいては企業の成長の原動力となると考えています。



◎人材育成

◇ICTプログラム本格スタート

真のグローバル企業構築を目指し、社員のグローバル気質を強化させる施策の一つとして、ICT（社内コンサルタントプログラム）を本格的に始動させました。専門知識を携えた社員が社内コンサルタントとして、ダイムラーグループの海外拠点で短期プロジェクトに参加し、さらなるプロフェッショナル性とリーダーシップ力の強化、ベストプラクティスの習得・共有、そしてグローバルネットワークの構築強化を目指します。グローバルネットワークや経験を持ち合わせた将来のリーダー育成プログラムです。

◇チュータープログラムがスタート

経験のある社員（チューター）が新卒社員など経験の少ない社員（チューティー）に対して、普段の業務を越えた様々な不安や悩みの相談にのることで、会社生活を支援しています。チューティーの不安を払拭する支援だけではなく、実際に向き合うチューターが後輩を支援することで、自発的にリーダーシップを発揮し、コーチングのスキルを学んでいく、まさに「相互成長力強化」を促すことが狙いのひとつです。

◎働き甲斐のある職場を作ろう

FUSO 2015のゴールの一つ「業界で最も働きがいがあり、誇りが持てる会社(Employer No.1）では、「女性の採用、活用、昇進」というイニシアチブ活動をしています。女性社員を対象にしたアンケートや直接対話する場を設け“働き甲斐のある職場”を作っていく上での足がかりを探っています。ロールモデルの推進として、女性社員を対象に女性管理職をパネリストとした「女性管理職とのインタビューセッション」なども開催しています。

◎仕事と家庭の両立

三菱ふそうでは、仕事と生活の調和（ワーク･ライフ･バランス）の実現に努めています。
子育て中の社員が働きやすい環境づくりに取り組んでおり、ライフステージに応じた多様な働き方が男女問わず可能となるよう対応しています。2011年に次世代育成支援対策推進法の下、厚生労働大臣より子育て支援企業として認定を受けています（くるみんマーク）。Employer No.1を目指す企業として、より充実した制度、また多くの社員が活用しやすい制度を構築していきたいと考えています。

くるみんマーク

◎Kids Dayの開催

「思い出に残る夏休みの一日を過ごしてもらう」ため、社員のお子さんを対象とした、労使協賛でのKids Dayが、8月、総勢132名に参加いただき、盛大に開催されました。Kids Dayに参加した子供たちは、施設見学の後、三菱ふそうで働くお父さんお母さんの職場を訪問しました。運営には2012年入社の新卒社員20名も加わり、参加者、主催者両者の思い出に残るイベントになりました。

Kids Dayの様子

安全・衛生

◎労働安全

三菱ふそうは、安全衛生管理方針に基づき、「社員の安全と健康の確保はすべてに優先する」を基本理念に、前年の結果も踏まえた安全衛生活動計画を策定し、安全衛生意識のさらなる浸透を図り安全で快適な職場づくりを継続的に推進しています。

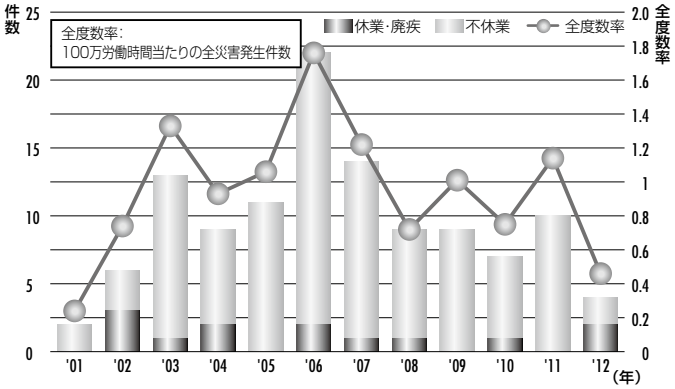
「リスクを特定　すばやい評価　めざせ危険ゼロ」をスローガンに、

1. コンプライアンスに基づき、管理・監督者は、安全配慮義務を遂行し、社員一人ひとりは「決められたルールを必ず守る」
2. 三現主義※1に基づきリスクを低減し、安全で快適に働ける職場環境をつくる
3. コミュニケーションにより、心と身体の健康管理を積極的に推進する。

◎リスクアセスメントの実施

三菱ふそうは「リスクマネジメント」の手法を活用した安全衛生に対するリスクアセスメントを継続して実施しています。これは、作業場における危険性又は有害性を特定し、労働災害（健康障害を含む）の重篤度（災害の程度）とその災害が発生する可能性を組み合わせてリスクを見積り、そのリスクの大きさに基づいて対策の優先度を決めた上で、リスクの除去や低減の措置を検討し、その結果を記録する一連の手法です。

■生産本部年度別安全成績



◎ヘルスケアセンター

2011年9月に川崎製作所・第一敷地のヘルスケアセンターがリニューアルされ、十分な設備とスペースを提供できるようになりました。

今後も健康づくりやカウンセリング、防災の救護拠点とするなど、さらに社員のサポート、サービスを充実させていきます。

ヘルスケアセンター

◎交通安全

社員の交通事故防止や意識の向上を目指し、通勤時の車両・自転車運転者、歩行者への交通安全・マナーの指導を実施しています。また、社員教育の一環として全国交通安全週間に合わせ、所轄警察署の交通課長による講演や近隣交差点での交通安全指導、交通KYT※2を実施し、意識の向上を図っています。

◎アスベストへの取り組み

三菱ふそうでは、過去のアスベスト取り扱い作業について、さかのぼって調査を実施し在職者の健診や相談窓口の設置等を行っています。

社内コミュニケーション

世界のダイムラー・トラック部門の25のイントラネットを統合した“Employee Portal”によって、従来の情報に加え、世界中で情報を共有できるようになりました。ID・パスワードによる厳格な情報管理で特定ユーザーへの情報公開が可能です。2012年には日本国内の全販売拠点でも、アクセスが可能になりました。

また、社内報“FUSO TIMES”や経営トップとの対話集会である「タウンホール・ミーティング」を通じて社内での情報の共有、社員と経営トップとの情報交流を図っています。

Employee Portal

FUSO TIMES

※1：三現主義とは、現場・現物・現実の三つの現を重視すること。問題が発生したときに、机上で判断するのではなく、現場で不具合の起きた現物を観て、どのような状態であるのか（現実）を確認することで解決を図ること
※2 交通KYT：交通危険予知トレーニング